



震災・原発事故から10年

当時を振り返って思うことは？

広野町に大きな爪痕を残した東日本大震災及び原発事故から間もなく10年を迎えます。

当時を振り返り、今の町の状況を見て感じることをお2人にお聞きしました。



北郷 幸生さん
(折木)

あれから10年、町の風景も駅の東側にビルやアパートが建ち、浜街道も整備され、様変わりしました。
当時一歳だった長男と、まだお腹の中にいた次男と穏やかな海を眺めながら、この浜街道を走ることが週末の楽しみの一つです。
未来を担う子供達のためにも故郷の復興が進むことを願っています。



坂本 洋子さん
(下浅見川)

震災から早十年、誰もが経験した事がない恐怖と先が見えない不安でいっぱいでした。
家族は親戚のお世話になり仮設住宅で生活をし、いわき市の方には大変お世話になりました。
広野に戻って五年、町の復興も目覚ましく東口の開発や未来学園の開校、町に活気が出て私達も元気を貰っています。
そして今年はコロナ禍の中で厳しい状態が続いています。一日も早い収束を願っています。

編集後記

あの地震・津波・原では無いのかと思いきり発事故から10年が経とうとしています。
(阿部 憲一)

この歳月を振り返ると、色んな思い、後悔、自分の非力さを数えるばかりです。

そして、我々の広野町議会は現実を直視しているのか、為すべき課題に取り組んできたのか、平時と同じつもりでいたのではないかと、大いに疑問とするところではあります。

これまでとこれからと、健康問題、賠償、町の財政や成り行きのことなど課題は実に山積みです。

しっかりと腰を上げて、町民を含めた合同委員会を立ち上げ、国に対して行動に出る時



寒風に耐えるサザンカ

- 発行・編集責任者 議長 北郷幹夫
- 広報委員会 委員長 阿部憲一
- 委員長 渡邊正俊
- 委員 小磯利雄
- 委員 畑中天子
- 委員 北郷伯弘

次の定例会は3月です

